

衆議院法務委員会ニュース

平成 27.5.12 第 189 回国会第 12 号

5 月 12 日（火）、第 12 回の委員会が開かれました。

1 裁判員の参加する刑事裁判に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 41 号）

- ・参考人から意見を聴取し、質疑を行いました。

（参考人）東京大学大学院法学政治学研究科教授	大澤	裕君
日本弁護士連合会刑事弁護センター委員	前田	裕司君
ジャーナリスト	江川	紹子君

（質疑者及び主な質疑内容）

辻 清 人君（自民）

- ・裁判員の負担軽減の観点から、審理時間の短縮が図られているが、審理時間の短縮を意識しすぎることにより、刑事裁判が形骸化するおそれはないか、大澤参考人、前田参考人及び江川参考人それぞれの見解を伺いたい。
- ・裁判員制度開始当初と比べて裁判員候補者の参加率の低下が進んでおり、国民の司法参加という趣旨に反する状況となっていると考えるが、今回の法改正は、裁判員候補者の参加率の改善に資するものか、大澤参考人、前田参考人及び江川参考人それぞれの見解を伺いたい。
- ・長期間の審判を要する事件等の対象事件からの除外規定は、あくまでも万一の場合に備えての例外的なものとして、できる限り適用を避けるべきであると考えているが、この規定が濫用される懸念はないか、大澤参考人、前田参考人及び江川参考人それぞれの見解を伺いたい。

國 重 徹君（公明）

- ・裁判員制度が導入されたことにより刑事裁判がどのように変わったと評価しているのか、大澤参考人、前田参考人及び江川参考人それぞれの見解を伺いたい。また、弁護士の弁護活動はどのように変わったのか、前田参考人に見解を伺いたい。
- ・被疑者国選弁護制度において、傷害致死事件では捜査段階では 1 人しか選任されないため負担が重いという指摘や、日本司法支援センター（法テラス）から報酬等が支払われるまでの間の記録謄写費用の負担が重く、謄写の枚数を制限せざるいと指摘があることについて、前田参考人に見解を伺いたい。
- ・裁判員等選任手続への裁判員候補者の出席率を向上させるための方策について、大澤参考人及び前田参考人に見解を伺いたい。

鈴木 貴 子君（民主）

- ・審判期間が著しく長期にわたる事件の裁判員裁判の対象事件からの除外決定に関して、裁判員選任手続を必要要件とすべきと考えるが、選任手続を除外決定の必要要件とすることが、なぜ難しいのか、大澤参考人及び前田参考人に見解を伺いたい。
- ・裁判員制度の形骸化を防ぐために、国民の声が反映され続けることを担保するための見直し規定が必要であると考えているが、見直し規定の必要性について、大澤参考人、前田参考人及び江川参考人それぞれの見解を伺いたい。
- ・取調べの可視化や証拠開示などの刑事手続に関する国民の声を取り入れる十分な努力をしているのか、又は、国民が信頼できる刑事司法制度が構築されているのかということについて、前田参考人及び江川参考人に見解を伺いたい。

重 徳 和 彦君（維新）

- ・裁判員裁判を前提とした検察官による取調べの適正化についてどのように考えているか、前田参考人、大澤参考人及び江川参考人それぞれの見解を伺いたい。
- ・裁判員制度導入後も、検察官による起訴基準が変化していないにもかかわらず、起訴率が制度導入前に比べて低下していることについて、有罪率を維持するために、起訴率が下げられている可能性も考えられるが、有罪率が下がっても起訴すべきなのか、前田参考人、大澤参考人及び江川参考人それぞれの見解を伺いたい。

清 水 忠 史君（共産）

- ・刑事裁判がどういうものに関し国民の理解や支持を広げる必要があることを踏まえ、国民が安心して刑事裁判に参加するために求められるもの、改善が必要なものについて、江川参考人、大澤参考人及び前田参考人それぞれ

れの見解を伺いたい。

- 裁判員制度の改善を図るためには、刑事裁判手続全般の中で検討・議論する必要があると考えているが、刑事裁判手続全般の中における同制度の改善の位置付けについて、前田参考人の見解を伺いたい。
- 市民感覚を反映させることができるよう裁判員裁判の対象事件の範囲を拡大することについて、江川参考人の見解を伺いたい。
- 裁判員に課せられている守秘義務に関し、裁判員制度の検証の必要性の観点から、評議に関する守秘義務の範囲を緩和することについて、前田参考人の見解を伺いたい。